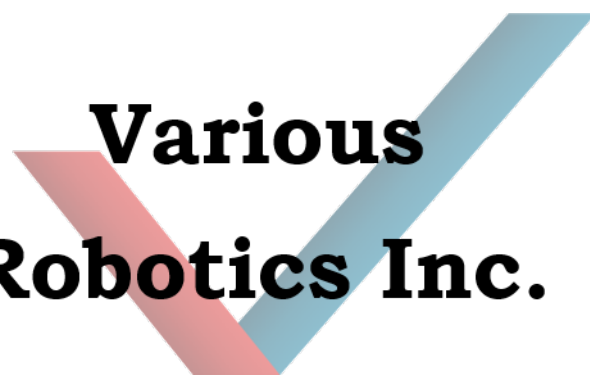


4脚ロボットを活用した シカによる農作物被害の低減ソリューション

The logo for Various Robotics Inc. features a stylized 'V' shape composed of two overlapping diagonal bars, one light blue and one light red. The text 'Various Robotics Inc.' is centered over this graphic.

**Various
Robotics Inc.**

Various Robotics株式会社 CEO 吉澤大知

弊社の紹介

- ✓ 人型ロボット等の最先端ロボット開発をしてきたメンバーで、今年1月創業。
- ✓ 現在は、日本のレースチームとともに、フォーミュラカー自動運転レースA2RLに挑戦中。
- ✓ また、並行してJAグループの支援を受けつつ、農業向けのロボットソリューションを開発中。

【フォーミュラカー自動運転レースA2RL】



“シカによる農作物被害”

●全国

全動物による被害額：164億円

シカによる被害額：70億円

5年前から1.3倍！

●群馬県 ※令和5年度実績

全動物による被害額：3.2億円

シカによる被害額：1.3億円

前年度から1.3倍！

※年度毎の波があり

既存製品における課題

- ✓ 鳥獣対策としては、電気柵や音・光による撃退装置、設置式罠などがあるが、以下のような課題があり。

移動できない

- ✓ 広範囲をカバーすることができない。
- ✓ 設置範囲によってコストが増加。

自然浸食
(草や雨、風等)

- ✓ 定期的なメンテナンスが必須。
- ✓ 気がつかない間に被害が出てしまう。

固定された
決まった動作

- ✓ しばらくすると、鳥獣が慣れてしまい、効果がなくなる。

4脚ロボットによるアプローチ

- ✓ 走破性が高い4脚ロボットを活用することにより、既存製品における課題を解決し、より効果的な鳥獣対策を実施する。

移動できない

- ✓ 1台のロボットで広範囲の圃場をカバー。
- ✓ 複雑な地形にも対応可能。
- ✓ 結果的にコストを低減。

自然浸食
(草や雨、風等)

- ✓ 固定設置ではないので、自然浸食を受けにくい。

固定された
決まった動作

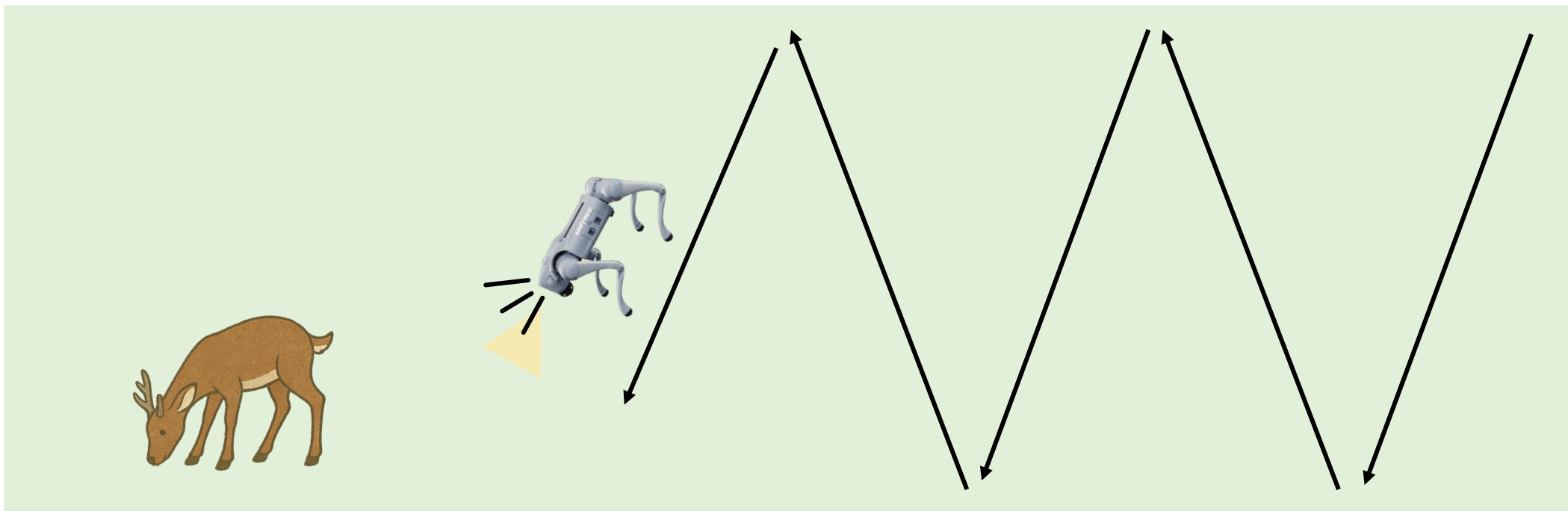
- ✓ 動き回る、もしくは近づくという行為により、動物が慣れにくい。

鳥獣被害対策ソリューションのイメージ

衛星測位システムを
用いて、圃場を巡回

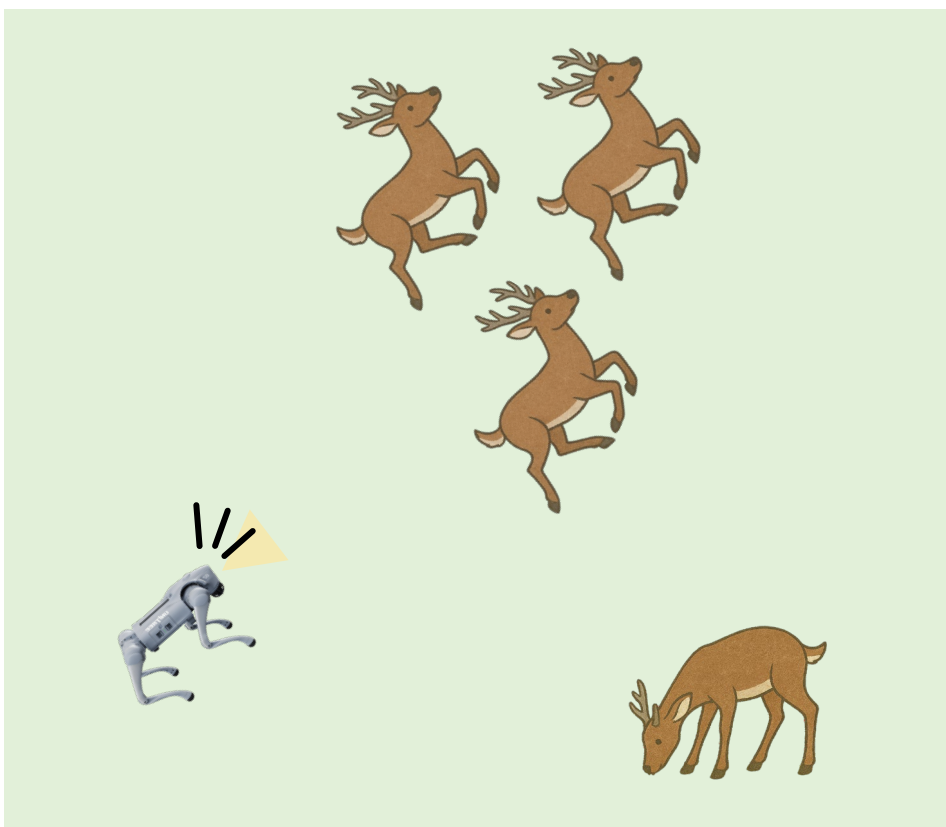
赤外線カメラなどを用いて、シカを検知

動作や音、光などで撃退



中長期的に目指す姿

- ✓ 中長期的には、ただシカを追いかけるだけでなく、間接的に捕獲につながる機能やその他にも役に立つ機能を実装予定。



- シカの侵入、撤退ルート特定し、罠の設置個所の提案。
- シカの発見情報（時間、場所）の見える化。
- 獣道の発見と見える化。
- 捕獲したシカの運搬。
- 日中の農作業における運搬。
- 地域の巡回警備。

Etc...

皆様へのお願い

ロボットを使いこなすことには自信があるが、

現場の課題感やオペレーションなどの知見がない

01 青枠箇所

生産者が困っていること、
どのような作業をしているかなどの現場の声や
情報を教えてほしい。



02 赤枠箇所

ロボットの普及には
様々なステークホルダーの
協力が不可欠。
チーム作りをご支援して
ほしい。

ワンチームで農業が直面するあらゆる人手不足に挑戦したい！！